

第9回

「奈良工芸の粹」展



2025.3/13(木)~3/17(月)

岸本圭司 作「金胎螺鈿蒔絵漆箱 さくら」

開催場所

9:30~16:00 ※最終日は15:00で終了

名勝 依水園 寧楽美術館

【主催】奈良新聞社 【後援】奈良県

【協賛】南都銀行/奈良県信用金庫協会/LGTウェルスマネジメント信託/三菱UFJ銀行/三井住友銀行/みずほ銀行/野村證券/大和証券/SMBC日興証券
三菱UFJモルガン・スタンレー証券/みずほ証券/日本生命/第一生命/明治安田/損保ジャパン/宝くじ/神田育種農場/ギャラリー舂小路

【特別協賛】大和農園グループ

【協力】裏千家淡交会奈良支部/表千家同門会奈良県支部/武者小路千家奈良官休会/煎茶美風流/大和末生流/黒滝村森林組合

おうち時間で園芸を楽しみませんか?

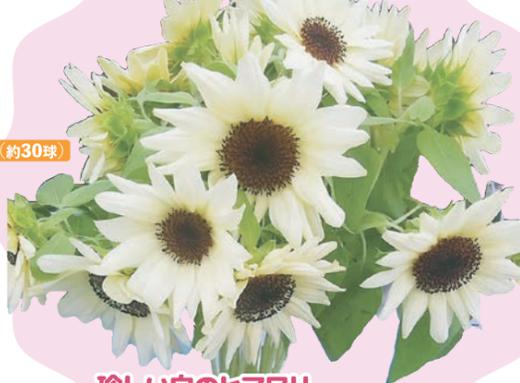


可愛い花が次々に咲く
白いヒマワリ お届け品 タネ
ホワイトナイト 開花期 6~9月
1袋(約20粒)

ゼフィランサス・混合 1袋(約30球)
お届け品 球根 開花期 6~9月



夏を彩る大輪種
百日草・ロイヤル混合 1袋(約50粒)
お届け品 タネ 開花期 7~10月



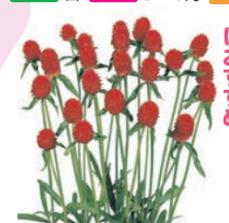
珍しい白のヒマワリ
ご近所からの注目間違いなし!
黒い芯のコントラストも爽やか!



花色のグラデーション
を楽しむ

オステオスペルマム キャンディフィールズ
オレンジジェリー or ベリーズハイン

※2種のうち1種をランダムでお届けいたします。
色の指定はできません。
お届け品 苗 開花期 3~6月 1株(9cmポット)



に切花、ドライフラワー
におすすめ

千日紅
ストロベリーフィールド 1袋(30粒)
お届け品 タネ 開花期 7~10月

花の園芸大満足セット **お得!!**

混合・ミックスは3色以上入っています。←

5種1セット 通常価格 4,260円のセットが

2,980円

送料込! (税込)

セット商品のバラ売りはできません。
単品での購入をご希望の場合はカタログやオンラインショップ
に掲載しておりますのでそちらをご注文ください。



商品のお届け
ご注文から
2週間程度

お申し込み ハガキ・FAX・オンラインショップ・お電話で

ハガキ・FAX・オンラインショップで
こちらのセットをご注文の方には
「大和農園オリジナル
ポストカード」をプレゼント!!



【お支払い】商品のご注文いただいた方には「受注明細書兼請求書」
(振替用紙)を送付させていただきます。商品到着後2週間以内に、
ゆうちょ銀行・指定のコンビニからお支払いをお願いします。代引き
は行っておりません。配達の日時指定は出来かねます。
【商品の返品・交換】商品は植物という性質上、不良品以外の返品・交
換はご容赦願います。

ハガキ・FAXの記入内容

- お名前 ●郵便番号 ●ご住所 ●お電話番号
- 申込番号 583-01 花の園芸大満足セット

ハガキの宛先

〒632-8511 奈良県天理市平等坊町110
株式会社大和農園 通信販売部「Q2910」係

欲しいものが見つかる 園芸カタログを無料でプレゼント!

年2回発行される通販カタログの「春カタログ2025」。
このカタログは、花の球根や種、花木・果樹苗から野菜の
種、苗、園芸資材など全部で1000点以上の商品を紹介
しています。

商品以外に、花や野菜の栽培方法
も掲載されており、お客様からは
「商品を選ぶときに一緒に育て方が
見られるのは非常に分かりやすい」
というお言葉を数多く頂いていま
す。栽培方法が分からない園芸初
心者の方にもオススメです!



TEL 0743-62-1185 受付時間
平日8:30~17:30

FAX 0743-62-4175

オンラインショップ 大和農園 オンラインショップ 検索



陶芸

大塩恵旦

薬師寺東塔基壇
(やくしじとうとうきだん)
粘土現土 ぐい呑
(ねんどげんど ぐいのみ)



世界遺産の土で、焼き締めただけで金に輝く作品。

直径7cm×高さ4.5cm

工芸作家として 社会に対して貢献を

「奈良工芸の粋」展では、工芸品を気軽に買い求めることができ、特設ギャラリーを企画の軸の一つとして位置付けている。作家作品を手の届く価格で販売することにより、工芸を暮らしに取り入れ、より身近に感じることが狙い。本展では、作家による社会貢献活動として、収益の一部を奈良県共同募金会に寄託し石川県共同募金会を通じ、令和6年に能登半島の災害で被災された方への義援金として役立てていただく。

工芸の粋」展 オークション

ガラス

新倉晴比古

「水天」大鉢
(「スイテン」オオバチ)



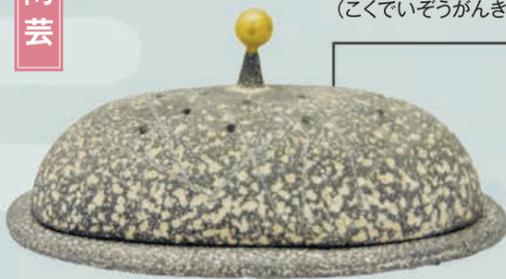
自然の美しい風景の中にゆったりと流れる川

直径25.5cm×高さ14.4cm

陶芸

豊住和廣

黒泥象嵌金銀彩飾り香炉「あすかの宙」
(こくでいぞうがんきんぎんさいかざりこうろ「あすかのそら」)



飛鳥時代の想いを形にしました。少しでも古代を感じていただければ幸いです。

横20cm×奥行13cm×高さ10.5cm

刀剣

金田國真

銀製小刀 銘:佳兆 國真作
(かちよう くにごねさく)



刀の拵え(外装)に付属する小刀を銀で製作しました。

刃長13cm 葎7cm

☺☺ Face to Face

奈良県信用金庫協会



奈良信用金庫

理事長 菊澤 竜一

本店

大和郡山市南郡山町529の6
☎(0743)54-3111(代)



大和信用金庫

理事長 中村 正徳

本店

桜井市桜井281の11
☎(0744)42-9001(代)



奈良中央信用金庫

理事長 高田 知彦

本店

磯城郡田原本町132の10
☎(0744)33-3311(代)

私たちはこれからも故郷・奈良を誇りとし、地域の活力ある未来を創造することで皆さまでともに成長を続けてまいります。



南都銀行本店

ナント・なら・ずっと!
NANTO 南都銀行

本店/奈良市大宮町四丁目297番地の2
TEL 0742(22)1131

<https://www.nantobank.co.jp/>

チャリティーオークション作品紹介



左右12.5cm×天地12.5cm×奥行0.9cm
(額装 左右22cm×天地22cm×奥行2cm)

令和6年度におきた能登半島地震、以前住んでいたこともある輪島には友人や知り合いも多く住んでいます。何が出来るわけでもないですが、自分の中にある心のつっかえをひとつひとつ取り除くように、このテーマで少しずつ作品を制作しています。

不二(藤岡正祥)
大地の呼吸(ダイチノコキユウ)

生活の
より身近に
工芸作品を

漆芸

第9回「奈良

チャリティー

ガラス

高橋直樹
テーブルランプ

ランプシェードに花模様のトンボ玉をうめこんですりガラスにしました。(吹きガラス、内被せガラス、サンドブラスト)

直径20cm×高さ20cm



漆芸

山本 哲
朱漆塗馬上盃
(しゅうるしぬりばじょうはい)

朱漆塗馬上盃です。長く使って行けば、根来になるでしょう。

直径8.6cm×高さ6.2cm



その購入が、社会にやさしいアクションに

チャリティーオークション入札方法

「奈良工芸の粋」展特設ギャラリーの一部でオークションを行います。

- ① 入札希望者は入札用紙に希望額を記入し、落札箱に入れる。(入札額は作品キャプションに記載されている最低価格以上の金額とする)
- ② 入札締め切りは、3月16日(日)16時閉場時間。担当者が入札箱を開封し、落札者を決定する。
- ③ 16日(日)中に担当者より落札者へ電話にて連絡。(同日16時以降19時までには連絡がつかない場合は次点の方が落札者となる)
- ④ 落札者は、3月17日(月)9時30分~15時、「奈良工芸の粋」展会場(名勝依水園・主屋)にて作品のお渡しおよび代金支払。



三菱UFJ銀行

奈良支店

〒630-8225 奈良市西御門町27-1

☎0742-26-3033



Private
Banking

LGTウェルスマネジメント信託株式会社

東京都港区虎ノ門2丁目10番4号
オークラブステータージュタワー9階

電話 03-4580-6800

www.lgt.com/jp-jp

作家紹介

刀 剣

河内國平氏の仕事は、ものづくりの原点を垣間見せてくれる。人間国宝の宮入昭平氏に相州伝を、同門谷正峯氏に備州伝を習い、数々の賞を受賞後、無鑑査認定を受け、平成26年には刀剣界の最高峰とされる正宗賞を受賞した。輝かしい経歴をもちながらも、工房の國平氏はいたって清廉、質素である。



刀剣画像 中村慧

河内 國平氏

「名刀に会うとうれしい。できそうな気がするからなあ。鈍刀に会うたらいやなあ。これもできてしまいうらやう。刀を作っているのは、出来、不出来は生じる。問題はできた刀のうちどれだけのものを厳選できるか。明らかに質の良いもの、悪いものは簡単に選別できる。その中間にあるのが難しい。中間にあるものは、良いもの、悪いものに比べて数も多い。その中でどれだけ高い及第点をつけるかで職人の良しあしが決まる。腕を極めた者だけが到達できるこの境地は、きわめてストイックな世界でもある。」

刀 剣

月山氏は、800年の歴史をもつ月山鍛冶の末裔(まつえい)である。月山鍛冶は、平安時代末期に現在の山形県にある月山の麓に興った刀鍛冶で、多くの名人を輩出した。近代になって大阪に拠点を移して、現在は桜井市で工房を営む。「長い歴史の中で繁栄した時も、途絶えそうになった時もあります。が、ここまで続いた刀鍛冶の家は他にありません」と月山氏。戦後の武器製造禁止令の際には、



月山 貞利氏

刀鍛冶では生活していけない。文様。綾杉肌は、地鉄に波打つと、月山氏の2人の兄は別の職業を選んだ。月山氏が大学を卒業する頃に、父親の2代貞一氏が人間国宝に認定、技術の伝承の必要を強く感じ、刀鍛冶になることを決意した。月山鍛冶のつくる刀は、直刃という刃文と綾杉肌という地鉄の文様を特徴とし、月山伝と呼ばれる。直刃は、焼き入れによって刀身に生じる真直ぐな

人 形

人形の歴史は古く縄文時代に遡る。当初は信仰の対象として作られたといわれ、神聖な力を持つもの、穢れをばらうものとされていたが、平安時代に入ると「ひいな」という子供の遊びが生まれ、江戸時代には「雛人形」として発展した。明治時代には欧米風の人形が主流となり、大正期から昭和期にかけてセルロイド人形や文化人形が流行った。

井上 楊彩氏



で用いられるもの、人形浄瑠璃などの芝居で用いられるもの、また美術工芸品として鑑賞されるものなど種類も幅も広い。井上楊彩氏は奈良に転居して30才の時に人形づくりに出会った。10年後、日本伝統工芸展に於いて桐壺人形を鑑賞し心を奪われた。桐の木を芯に桐壺(練り物)で造形をして空で乾かし磨く。胡粉を塗って乾かし磨く。丹念に磨きを繰り返すと形が現れる。紙や布、貼込みや木目込み、岩絵具や漆による彩色など、数々の技法からイメー

の面白さに目覚めた。第62回日本伝統工芸展に於いて日本工芸会会長賞を受賞、2018年には大阪府知事表彰を受けた。

刀 剣

高校時代、河内國平師の著書『日本刀の魅力』と出会い、その仕事に対する姿勢や職人としての生き様に強く惹かれ、地元福岡の高校を卒業後に吉野郡東吉野村に工房を構える師に弟子入りした。



Photo by K.K. Nakamura

金田 國真氏

以降8年間住み込みで職人としてのいろはを学び、平成27年の初出品のコンクールでは新人賞と特賞(薫山賞)を受賞した。弟子入り期間中に、師がこれまで古刀にしかみられないときれた「映り」を現代刀によみがらせた瞬間を傍らで体験したことは、自身にとつての財産だと語る。その後平成28年に独立。現在は山辺郡山添村に工房を構えている。「1日でも早く師の背中に追いつける様、自分の作品と対話しながらよりよいものを作りたい。」と日々精進する。

刀 剣

祖父や父の背中をみながら、幼い頃から刀鍛冶になると思っていた。その意思をばったり示したのが高校卒業のとき。父貞利に弟子入りを願うと、これからの時代は刀だけでは難しいと大学の進学を勧められた。通



月山 貞伸氏

学の間合に父の工房を手伝いながら刀のいろはを学び、卒業と同時に本格的な弟子に。4年間みっちり修業をして、平成19年新作名刀展で新人賞を受賞。その後いくつもの賞を得てきたが、「まだ足りないかもしれません」と日々父祖から伝わる月山伝の習得に励む。いっぽう刀文化の啓蒙(けいもう)活動として、アニメや時計会社とのコラボにも取り組む。「今刀剣ブームといわれま

人 形

奈良生まれ奈良育ちの木村氏が、人形に惹(ひ)かれたのは30代半ば。奈良の街中の店のシヨウウィンドーに桐壺人形が飾られていたのを見て、その姿が目につきて離れなくなつた。もともと絵画など創作に興味があり、さっそく奈良の教室に通い始めた。教室からは日本工芸会に応募する優秀な生徒がおられ、木村氏もそれに触発され、日本伝統工芸展に勉強のため出向くようになった。現在は公募を中心に

木村美智子氏



作品を発表する。木村氏は、登山やハイキング、星や草花が好きなナチュラルリスト。自然の中に身を置く時に覚える感動を人形に投影する。また、奈良の伝統行事に足しげく通い、そこに根づいた歴史、継承する人の所作にも題材を求めている。作品は、思いや気持ちを入るの形を借りて昇華させる作業だと語る。

あなたに夢を。街に元気を。



クーちゃん

宝くじ



SMBCグループ

昨日、今日、明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。今日を未来へとつなげていくために。私たちは、お一人おひとりの毎日を、一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行

川北成彦氏は教師志望だったが、人を育てるより自分でじっくりと楽しむ仕事をしたと、職人になることを決めた。吹きガラスは、現代的なジャンルの工芸である。

ガラス

「吹きガラスは、ちゃんと扱わないと、ちゃんと吹いてくれない。吹いているその瞬間、ガラスに生命を吹き込むのです。すると、ガラスは作家の意図を受け取って、このような形になりたがるのです。」

川北 成彦氏



1990年代から、奈良市展では奈良の歴史の流れの中に位置づけられると思います。また重んじました。「ガラスそのものは、正倉院制作に携わってこられた方おられます。ただ、現代の私たちが制作している吹きガラスは、制作にせよ販売にせよ、ここ30年ほどの間にそのスタイルを確立しました。けれども、その歴史の中で形あるものとして残していくのが作家の仕事であり、これからの頭張ってほしいです。」

小さいころからキリキリしたものが好きで、小学校の卒業時には将来の夢を「ガラス職人」と書いていた。多摩美術大学でガラスを専攻。就職を意識し始めた3回生の頃、全国の働いてみたいガラス工房を8か所選

ガラス

び、友人3人で東京を起点に、車で東に西に巡った。その最後に訪問したのが、奈良ガラス工房であった。ここにひかれたポイントが、建築に携わる仕事をしていて電気炉があり、なおかつ吹きガラスの溶解炉があること

武次 聡子氏



と。そして訪問して初めて代表の新倉晴比古氏が多摩美術の先輩だと知ったというサプライズ。からも持ち前の明るさで乗り切り、吹きガラスのスタッフに。現在は吹きガラスの毎日だ。自分の作品を手にとった人がこれだったのよ、これ探してたのよ、と言ってきて、実際に使ったものも送ってくれた。最大喜びと語る。

細井賢紀氏がガラス工芸作家を志したのは、東京ガラス工芸研究所を見学した時である。「ガラスは硬くて涼しい印象を受けます。しかし、作る時はとても軟らかいです。しかも、一つ一つ表情が違います。その

ガラス

印象に好奇心に近い興味を持ちました。実際にやっていると、ぐにゃぐにゃなものに形にしていくなかで、とても楽しいものです。制作は一瞬の勝負で、あつという間に形が変わってしまします。まるでスポーツ感覚

細井 賢紀氏



です。これまで知っていたものを設立。作家として国際ガラスづくりにはイメージが全然違う。工芸展、日本伝統工芸展などありました。と、細井氏は言う。順調に受賞実績を積み重ねると1992年に奈良にガラス工房。ともに、1989年から全国各地で個展や兄弟展を開催している。ガラス工芸作家としての地位を確立しつつあるが、ガラス代をはじめとしてコストがかかるのが悩みだ。制作にあたっては、特定のテーマはない。「奈良工芸の粋」展に、花器やぐい飲みを出展する。

作家紹介

東京生まれの理工学部出身。学生時代よりガラス工芸の面白さに魅かれ、卒業後の職業としてガラス工場の就職を目指した。新宿に朝日カルチャーセンターの教室があり、そこで矢野担氏に師事した。矢野氏に希望

ガラス

を相談したところ、業界つながりで当時桜井市に工場があった岩津硝子に就職が決まり、その縁以降、奈良県民である。同社時代に代表作「卵と殻」が第2回ハンズコンテストでイン賞受賞。このままガラス職

高橋 直樹氏



人の道を究めたいと思っていた。況により会社の経営が悪化し、が、オイルショック後の経済状況に悩まされた。勤続10年を機に作家として独立した。現在は明日香村で「明日香村の吹きガラス」と名付けた工房で作品制作に向き合う。美しくも優しい作品は、笑みがこぼれる上質のユーモアも含み見る者を魅了する。

新倉晴比古氏は多摩美術大学4年生の時に、国内で初めてガラスを取り入れた講座が開講した時に受講した。実際に職人が吹きガラスを制作している現場を見学した時、職人の世界を見たと思った。それは大道芸人の

ガラス

パフォーマンスのようであり、一瞬にして形が出来上がる。それに魅力を感じた。作家としては、日本のガラス展をはじめドイツのハノーバー・メッセや台湾の新竹国際ガラス芸術祭に出展するなど、国

新倉晴比古氏



際派である。ガラスは、他の伝統工芸などに比較すると、工房に多額の設備投資とランニングコストが必要である。しかも伝統とかが付加価値がないので、販路も限られている。「ガラスは、色彩がクリスタルで透明であり、ブランド志向も強い。どちらかというとジュエリーのような、アクセサリーとしての需要がありま

茶釜は茶席に最初から最後まで置かれ、茶会の中心的存在である。茶の湯の歴史とともにある、伝統工芸の一つだ。川邊庄造氏は、2代目庄造氏の長男として生まれ、父から茶の湯造りの技法を学び、数江

茶 釜

瓢鮎子、古賀健蔵の両師に指導を受けた。西大寺の大茶盛の大釜を奉納したのをはじめ、東大寺、中宮寺、薬師寺、橿原神宮などに作品を奉納している。また京都の野村美術館などで作品展を開催、平成16年に3代目庄

川邊 庄造氏



造を襲名した。茶釜は長い伝統があるが、作品には現代的なセンスを生かしたオリジナルティーのあるデザインの商品を制作している。とりわけ奈良らしいデザインを心がけているという。ちなみに、娘の尚子氏も、庄造氏に茶の湯造りの技法を学び始め、平成21年には日本橋三越本店「川邊庄造茶の湯釜展」に出展、親子で茶の湯造りの道を歩んでいる。

NOMURA 野村證券

奈良支店

〒630-8227 奈良県奈良市林小路町45(やすらぎの道)
TEL.0742-22-0351
(電話受付時間 平日8:40~17:10)

さあ、新しいを追い風に。

NISAのご相談は大和証券へ



大和証券
Daewa Securities



奈良支店 電話 0742-23-1271 奈良市林小路町8-1(ニッセイ奈良若草ビル 2階)
大和八木営業所 電話 0742-55-0555 橿原市内膳町1-1-11(U・遊上田ビル3階)
学園前営業所 電話 0742-55-0550 奈良市学園北1-10-1(パラディ学園前I(北館)2階)

作家紹介

父親が柳生焼の陶芸家で、幼い頃から焼き物には興味があった。ところが、息子が自分と同じ仕事をすることに抵抗があったのか、焼き物に携わることが父親が許してくれたのはようやく大学に入ってから。

陶芸

それでも、大学は陶芸科で、在学中にある展覧会で塚本快示氏の作品を見て衝撃を受けた。そのときから青白磁づくりに志すようになった。

青白磁ではすでに数々の実績を積み井倉さんだが、近年

井倉幸太郎氏



「道具」という器体に透かし彫りを入れてそれを釉薬(ゆうやく)で埋める中国古来の手法で注目を集める。この繊細な技法を通じて、釉薬の美しさをどう表現するかを日々探求する。

さらに「磁器だけでなく、地元の柳生の土を使った柳生焼にもどんどん挑戦していきたい。」とも話す。伝統とモダンの間を縫って、どこまで土の表現が可能か、井倉さんの歩みは止まることがない。

天目茶碗はよく宇宙にたとえられる。漆黒に浮かび上がった斑文が夜空の星を連想させるからだろう。南宋時代の中国で焼かれたこの焼き物は、お茶とともにその器として日本に輸入され、茶の湯の世界で珍重された。

陶芸

日本でもこれを再現しようと瀬戸で多くの天目が焼かれ、これを瀬戸天目と呼ぶ。しかし、その完成度は中国のそれとは比べ物にならず、千利休に代表される侘(わ)び茶人からその

東川 和正氏



不完全さがもてはやされたものの、本物の天目の再現は長らくかなわなかった。最近になって、本物の天目に挑む陶芸家が少数ながら現れ調査し、窯たきも微妙な計算に基づいて行います。そうした科学的な努力の末、窯入れた多くの茶碗の中からわずかに数碗とれるのが油摘(あぶらとぎ)であり、禾目(のぎめ)なのです。

高校の美術科では油絵を、大学では彫金を専攻した。様々な素材にふれて物を作る日々を経て、卒業後は京都府立陶工高等技術専門学校で絵付の道に進んだ。学校では線の描き方から学んだ。たて線から始まり、小紋や柄など、どんどん描けるようになっていくのが楽しく、自分に向いていると思っ

陶芸

た。卒業後は京都府立産業技術研究所の伝統工芸技術後継者育成研修コースで釉薬をメインに習い、その後奈良伝統工

大塩ほさな氏



芸後継者育成研修を修了した。父も妹も陶芸家。自分は絵大学卒業後に決めた陶芸の進路、ずっと続けていきたいと語

赤膚焼窯元3代目・大塩昭山氏の次男として生まれ、平成6年、がんこ一徹長屋で独立した。

陶芸

恵旦氏は薬師寺東塔基壇より発掘された粘土に他の土を混ぜず、100%そのままを使用し、釉(うわすり)を使わない「焼き締め」の技法にこだわった。

大塩 恵旦氏



変した。さらに電気窯で長時間低温焼成することで、黒味を帯びた銀色の窯変が。自身も予想だにしない出来事

だったが、1300年前の粘土をそのまま使用したから生み出すことができた赤膚焼の新たな魅力であると自負している。

陶芸

陶芸は大学から。2年やってみて面白かったら続けよう、と軽気持ちで専攻してみたたら、これが自分にぴったりはまった。それ以来、一筋である。卒業後は京都府産業技術研究所の伝統工芸技術後継者育成研修陶

大塩 まな氏



作品は成形を得意としており、彫りを装飾としてほとんど自然の風景に由来する。鳥、山、川。外を見たらインスピレーションが多く、それは工房をとりかこむ自然の風景に由来する。鳥、山、川。外を見たらインスピレーションが多く、それは工房をとりかこむ自然の風景に由来する。鳥、山、川。外を見たらインスピレーションが多く、それは工房をとりかこむ自然の風景に由来する。

陶芸

は、自分の作品が何年後かに、面白いものを作っていた人がその時代にいた人

大塩 正氏



できる。形を整え、釉薬を塗る。しかしいったん窯に入ってしまうと、その後どうなるかは作家には分からない。そこは摂氏1200度以上で燃焼する世界である。作品が窯から出てきたとき、作家としての力量が試されるのだ。

個展、グループ展の主催はもちろん、奈良県展、ジュニア県展の審査員や奈良芸術短期大学での准教授など、幅広い活動を展開している。

SMBC日興証券

奈良支店

TEL.0742-22-1111

奈良市高天町 48-5 (ALPHA SQUARE)

大切な資産運用のことは、当社にご相談ください。



三菱UFJモルガン・スタンレー証券

難波支店

〒542-0076 大阪府中央区難波 2-2-3

TEL: 06-6213-1400

作家紹介

西林さんは信楽で修業をした後、故郷の吉野に工房を構えて作陶に励む。茶陶を主に制作するが、赤膚とは違って、戦国時代の侘(わ)び茶人たちが珍重した高麗物や桃山陶などを得意とする。

陶芸

井戸、伊羅保、古瀬戸、黄瀬戸等、工房には当時の代表的な器を写した試作品が並ぶ。最近では、中国の代表的な茶碗である天目の垂種、灰被(はいかつぎ)天目に挑戦している。いわば天目の粗製品だが、これを千

西林 学氏



利休をはじめとした侘び茶人たちが評価した。現代の陶芸界で天目を焼く作家はかなり増えたが、あえて灰被天目をやろうとする作家は少ない。その意味で、西林さんは孤高の挑戦を続けている。「一味のある灰被を目指して、試行錯誤する毎日です」と、それでも、西林さんは楽しそうに語る。

陶芸

「美術好きの母に連れられて、小さな頃から県内の美術館や寺社を訪ねていました。今の仕事の原点です」という本多氏は、高校の頃には、美術系の学校に進むことを決めていた。「美術全般に興味がありまし

本多 亜弥氏

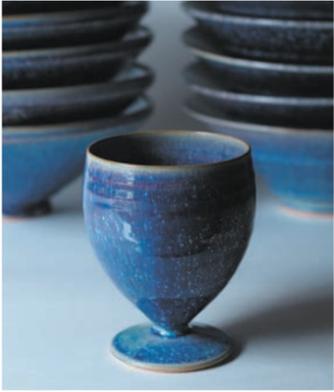


たが、身近で使っていて楽しむことのできる工芸に特に興味を持って、愛知県の芸大の陶磁科に入学しました。愛知県といえば、窯業の大産地である瀬戸と滑石を抱える。そんな環境で本多氏が選んだの

陶芸

見野氏は、大学では建築学を専攻していた。入学時サークル活動をしようという目留まったのが「陶芸部」。入部して器を作ってみて、陶芸の魅力にハマった。気づけば建築より陶芸が好きになってい

見野 大介氏

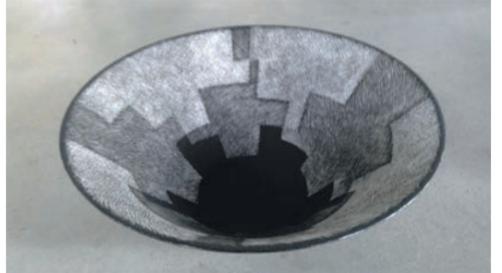


写真は自身の代表的なブルー「蒼天釉」。釉薬の濃度や焼成、器の形状による釉の流れ方など変化を引き出すために創意工夫し、1つの釉薬から多彩な器は、デザインはもちろん、食

陶芸

第65回日本伝統工芸展において、陶芸部門の最高賞である優秀賞に選ばれ、日本工芸会会長賞を受賞した。受賞作「線描幾何文化人」は、円錐を逆さにしたようなシャープな造形の赤土に白化粧をほどこし、さらに

森田由利子氏



1様の輝きを放つ。森田氏の代表的な作風である。陶芸に出会ったのは、絵画を専攻していた大学時代。土でものを作る快感にめきめき、絵画の制作で悩むといつも土の質感に癒やされ、卒業後も陶芸を続けてきた。モダンな空間に似合う存在感のある作品を目指しており、長年かけて自分の好きなスタイルを追求した結果、装飾をそぎ落としたフォルムと、手仕事のぬくもりを感じる幾何学文様が共存する独自のスタイルとなった。

陶芸

学生時代はグラフィックを専攻し、広告の仕事に7年ついた。日々消費される「ゴミ」をリサイクルの世界にしていると、ふと自分は世に何を残せるのか、このままでもいいか疑問がわいた。その時、土鈴作家であった父の

山本 義博氏



山本氏は現代の琳派を陶芸分野で目指し、日本人好みのモチーフをデザイン化して取り入れ、多くの雅な作品を生み出している。

陶芸

脇田宗孝氏は明日香村の出身で、奈良教育大学を卒業後、1970年に明日香村で陶房を設立、開業して陶芸作家として活動を始めた。若いころから埴輪や須恵器に関心があり、歴史的な風土と

脇田 宗孝氏



「陶芸の各種技法を習得し、土財の意味と価値を会得すること」をライフワークとしている。作家としては、「自分なりにから生まれる創造的表現の喜びを体感させることにより、文化性を表現していきたい」と言う。個展や展覧会への出品のほか「世界やきもの紀行」「東アジアのやきもの」「陶の語り部」など多くの著書、論文がある。

明治安田



2022 マイビジネス フォトコンテスト 応募作品 「楽しいね」(齋藤 彰さま・山形県)

ひとに健康を、まちに元気を。明治安田

私は、孫たちの追っかけ。今しか撮れない姿を、残したくて。

ひとに健康を、まちに元気を。



健康を、いっしょに育てよう。



つながり、ふれあい、ささえあう地域社会を。



奈良支社 〒630-8241 奈良県奈良市高天町22-2 明治安田生命奈良ビル TEL 0742-26-2126

一生涯のパートナー

第一生命



Dai-ichi Life Group

第一生命保険株式会社 奈良支社

〒630-8244 奈良市角振町18 奈良第一生命ビル

☎0742-26-2821(代)

荒木義人氏は、国立奈良高専を卒業し、化学工業でエンジニアになるつもりだったという。しかし、オイルショックで希望する就職先がなく、困惑している時に、奈良県が伝統工芸後継者の養成を目的とした学生を募

一刀彫

集めているのを知り、応募した。たまたま一刀彫を選んだ。それがこの道に入ったきっかけだった。

彫刻家の竹林薫風氏に師事し、2年後から眞展への出品を始めた。自分も師匠のような

荒木 義人氏



作家になりたい、ただそれだけでひたむきに制作に励み、1984年に眞展賞を受賞。これ以降、文部大臣奨励賞、日展芸術性の高い作品を目指す。自身の目標である。

2002年に天皇皇后両陛下への献上品「立雛」を作するなど、その実績は高く評価されている。その努力が、一刀彫への恩返しになると思っている。

一刀彫

千葉県出身。高校卒業後、京都府園部市にある京都伝統工芸専門学校(現・京都伝統工芸大学校)に進学。木彫刻を専攻し仏壇の欄間などの彫刻を学んだ。2010年に奈良に来て、土井志清氏に弟子入り。本格的

平井 和希氏



ことが多く、これに対応できる彫の歴史を理解しながら作品づくりを最近確立した。また元春日大社権宮司岡本彰夫氏の「匠の会」に入会し、奈良一刀

修生となり、現在は奈良工芸フェスティバルの副実行委員長をつとめ、正倉院展からならまちへ、工芸で人の流れをつくる事を目指している。

一刀彫

奈良市生まれ、木津川市育ちである。仏像彫刻を学ぶため京都伝統工芸専門学校(現・京都伝統工芸大学校)に進学。卒業して2年間仏像の世界へ。当時、なら工芸館館長であった神箸勝氏に出会い、師と仰ぎ、もともと

守田 朋浩氏



が入ることにより手垢をつけながら学んだ。その起源は平安時代、春日若宮おん祭を飾った彩とを良しとする神聖なものだから、色人形で、その頃から伝統は変わらぬ、と話す。材料も騰など近年も厳しい状況が続くが、一刀彫が後世も続いていくことを目指している。この道で皆の生活が成り立つよう自分も盛り立てていきたい、と話す。

現在の大和高田市を中心に江戸時代から奈良の名産品として人気を博し、昭和40年代ごろに途絶した「大和紬」(よまとがすり)。「山田氏はその復元に取り組む。

染織

味を持ち、愛媛県の西予市野村シルク博物館で2年間絹織の基礎から染織の工程を学び、京都西陣の吉田手織工房でも内弟子として様々な織物技法を学んだ。そして大和紬と書籍を通じて運命の出会い。シンプルな

亀山 知彦氏



美しさが今ほついでしまっていることに衝撃を受けた。その後奈良県民族博物館で大和紬の機も道具も現存するものがほとんどなく、苦勞と工夫の連続だったそう。2020年、大和郡山手町家物語館で初個展「復元」という言葉に恥じないと自信がついた。これから自分流のアレンジを加え、再び大和紬が生活を彩ることを希求する。

染織

工芸の部門の染織のジャンルは、人間を取り巻く建築空間から、人の皮膚に一番身近な身体に纏う布のようなものまであって、それぞれに大切な機能を持っている。植物繊維や科学繊維で作られる様々な糸、また色を

森本 恭子氏



森本氏は京都市立芸術大学で6年間、染色と織物を学んだ。選択し今に至っている。同学で佐野猛夫、三浦景生、来野月、八木敏子氏に師事し、創作の厳しさと喜びを指導され、そこで学んだ事が後の作品作りの精神の基本となっている。以来、専門として綴れ織で

タペストリーを創作することを選別し今に至っている。アメリカで2年、フランスで2年暮らし、その後世界のあちこちを旅する機会を得て、色々見聞を深め、多くの人達との交流を得た。学生時代から今まで森本氏の創作の基本的テーマは「一人」である。体力と知力が許す限りこの仕事を続けたいと語る。

染織

高校時代より美術の道を選んでいた。大学進学にあたり専攻を工芸にしようと思いつき、陶芸・漆・染織の中、自分は何だろうかと考えている時、産生のギャラリーで夢雲で京都の染色作家・齋藤洋氏と出会った。当時の齋藤氏はろうけつ染めで制作しており、鮮やかな色がダイナミックに重なる作品に圧倒され、それまでの自分の中にあつた染織のイメージが一変した。その場で齋藤氏と話す機会にも恵まれ、「人は生まれた瞬間布に包

中井由希子氏



まれ、ずっと服を着て、死ぬ時うけつ染めで「衣服」を作る上も布に包まれてあの世に行く」という言葉に感銘を受けた。これが大学時代から現在まで、ろトリエを主宰していた時、日本のファッションブランド「ma tohu」(まとゆ)にテキスタイルで参画する機会を得た。デザイナーのコンセプトに触発され、作品の創造の源泉とする。自分の領域が他者とのコラボレーションにより広がっていく経験をした。現在、都府にアトリエを移し豊かな自然の中、ろうけつ染めをさらに深化させるべく創作活動に励んでいる。

作家紹介

KANDA'S PEDIGREE SEED
SINCE 1951

奈良の地で、タネと共に創業70余年

株式会社 **神田育種農場**
<http://www.kandaseed.co.jp>

ウリ科種子専門 ●スイカ ●メロン ●きゅうり ●かぼちゃ ●台木 ●他

SOMPO

受け継ぐのは、人への思い。

東京の街を守るため結成された私設消防団「東京火災消防組」(1888年)

損害保険ジャパン株式会社 奈良支店
〒630-8115 奈良県奈良市大宮町6-2-8
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

損保ジャパン

作家紹介

奈良漆器の作家のなかで、岸本氏の経歴は少し変わっている。高校から漆芸を学び、卒業後は輪島で漆技法を学んだ。さらびやかな螺鈿(らでん)に特徴をもつ奈良漆器に対して、輪島は、時絵(まきこ)や平文などの装飾技法で広く知られる。長く輪島の漆器を採求してきた岸本氏が、螺鈿を始めたのが約20年前。「それまでは、白の装飾には卵の殻を使っていたが、貝を使うようになって、奈良漆器の技法の面白みがわ

漆 芸

岸本 圭司氏



かつてきました」と岸本氏は話す。輪島と奈良のクロスオーバーする地点で、岸本氏がこだわることが「空間」。「花を描くには、はな、風をよんでいる花、少し不完全な色気を感じさせるような花の瞬間をとらえたい」。作品全体の構成にしても「螺鈿や時絵で描く図と背景となる漆の地とのバランスは何より大切にしています。漆の黒は作品のなかで特に重要な要素のひとつです」。多様な技法を駆使しながらも、岸本氏は、見かけの派手さより、ひっそりと落ち着いた輝きを放つ作品づくりを目指している。

漆 芸

樽井 宏幸氏



ら、神社仏閣で実際に使用されている美しい漆器を身近にみてきた。「堅牢(こつこ)さと美しさ」を追求する。漆器のなかで、漆の質は異質である。奈良漆器といえは、漆の塗り厚が最も丁寧とされる鮮色塗の地に螺鈿や平文で装飾を施すのを特徴とする。これに対して、宏幸氏の作品には、装飾のない朱塗りの器が多い。「日常の道具として使えるもの」との思いで漆器に取り組みできた結果、評判が評判を呼び、現在の作品は品薄状態にある。漆職人の父親を手伝いなが

「漆器は高価だから、その良さがわかる手前どころで敬遠されがちです。この高い敷居を何とかできないか、と思いがながら仕事をしています」。小西氏は、螺鈿の人間国宝の北村昭斎氏の長女として、漆器に囲まれた環境で育つ。現在、漆器作家として活躍する一方で、主婦の顔も持つ。「主婦の視点から少し背伸びすれば手に入る価格で、世界にひとつだけの宝物を持ってほしい」という思いから作り始めたのがアクセ

漆 芸

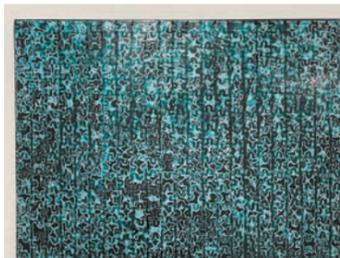
小西 寧子氏



サリーや日用品。漆と螺鈿の技法を駆使した小物類。「装身具は人の目に留まりやすい。日用品も使ってもらって良さがわかるもの」と小西氏は話す。一方で、本格的な漆作品にも取り組む。「本格作品で用いた技法をそのまま小物で使っているので、わたしのなかで両者はいつも同一面でパラレルに存在しています」。高校のときにラリックやクリムトなど、アールヌーボーの美術に強い影響を受けました。時絵や螺鈿と同じ要素が詰まっています。小西氏の気取りや術(てら)のない語り口と同じように、その作品はストリートに漆器の新鮮な魅力を伝えてくれる。

漆 芸

不二(藤岡 正祥)氏

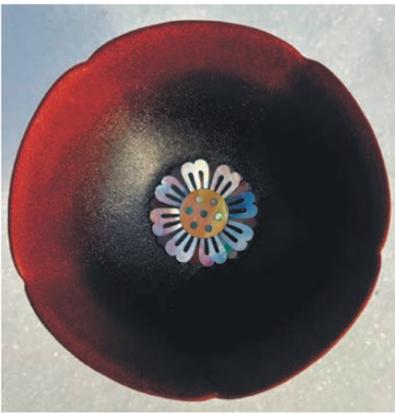


て家業経営に絞った時期もあったが、現在は漆芸を主な表現分野として自身の制作意欲を全投している。自分にとって作品作りとは、自分を保つもの。誰に媚びることなく、自分に正直に。自分をぶつけられる作品を追求する。誰もやらない表現を見出したい。作品に向き合っている時の自分、最も自然で自分らしい。

故郷の広島で高校のとき日本伝統工芸展をみて漆芸に惹かれて、富山の大学で漆芸の基礎を学んだ。その過程で螺鈿や平文という技法に興味を抱き、恩師の薦めから、螺鈿の人間国宝北村昭斎氏に弟子入りする。奈良にはそれまでも何度か正倉院展を訪れていた。天平の漆器の代表的な技法で自分の作品をつくらんと懸命に修業。昨年日本伝統工芸展で高松宮記念賞を受賞。若手としては

漆 芸

しんたにひとみ氏



異例の受賞となる。作品のモチーフには子供の頃から好きだった昆虫をよく用いる。受賞作もカミキリムシをイメージした漆箱だった。昆虫の造形に、漆、螺鈿、平文の技法は親和性があるようだ。しんたに氏は、「今後は昆虫だけでなく、その周りの環境や、できれば恐竜などもモチーフにしたい」と話す。

漆 芸

八尾さつき氏



八尾氏が漆芸の道を志したきっかけは大学の卒業論文。時絵の硯(すずり)箱をテーマに歴史の資料や文献に触れ、その魅力に惹かれた。その後、石川県の輪島で時絵や沈金などの技法を修得した後、奈良で漆芸作家の山本哲さんから螺鈿を学んだ。漆のいろいろな技法を学んだが、なかでも研ぎ上げた漆面に刃物で模様を彫り、そこに金箔や金粉を埋め込む沈金という技法に引かれた。主な作品には必

漆 芸

山本 哲氏



螺鈿の魅力にとりつかれて約40年あり。山本氏の作品は話題性に事欠かない。虹色にきらめく森(なつめ)、二月堂から望む大和の風景や、打ち上げ花火の街を描いた漆箱など、ひたすら螺鈿(らでん)の可能性を追求してきた。その作域は、伝統工芸としての螺鈿の領域をすでに超えている。「正倉院に代表される漆器の名品はもうそろそろ素晴らしい。しかし自分が作るものは、常に現代人の目に訴えるものでありたい」と意欲を見せている。



伴哲生(錫) x 奥島圭二(硝子) 二人展「ふに」 2025年3月15日(土)~23日(日) 11:00~17:00

gallery 小路 kusakouji

奈良の伝統工芸品や、奈良で活躍する作り手さんの作品を集めました。貸町家「木屋」もご利用ください。

〒630-8306 奈良市紀寺町913 ☎0742-93-8878 www.kusakouji.com

上野孝志氏は、長年にわたる会社員として経理の仕事に携わってきた。35年間勤め上げて定年退職後、自治体が開催している文化教室で陶芸やガラスとにも学んだのが竹工だった。いろいろな条件を考えた結果、竹工を選んだという。

竹工は、竹を削るところから最後の仕上げまで、すべての工程を自分ですることが出来る。時間がかかり、根気よく作業するのは、細かい数字を追っていく経理の仕事と、どこか似

竹工

上野 孝志氏



ているし性に合っていると感じた。「自分で考えて発想して、1年かけて深めていかないといいものはできない」というのが木工の先輩の言葉である(日本工芸会は木工と竹工で部会を組織している)。

上野氏の竹工は、自由な発想で、自分で表現したいものを好きなように作る。こんなものを作ってみたくと思ったら、半年、1年かけて形にしていくのだ。

サラリーマン時代、土日にゴロゴロしている山本氏を見かねた妻が、2002年に近鉄文化サロン竹工芸教室に申し込んだのがこの世界に入るきっかけである。7年後日本伝統工芸展新人賞受賞、以降同展等複数回入

竹工

山本 弘之氏



環境が竹工芸の原点である。竹工は、立体の竹をわざわざ削ってゴゴに、また立体に仕上げた。姿は変わっても竹という存在は変わらない。清々しく軽快で、竹が風に吹かれてそよぐ様が残る。透かしも、得意とする波網代編みもそうである。いつか自分が死んだ後、1点でもいいのでこの世どこかに作品がコレクションされていたら幸せと語る。

「木一草のあるがままにものを置く」自然の流れに身を任せたものづくりが自身のスタイルという。シルバードと真鍮(しんちゅう)の存在感のあるアクセサリを制作。22歳の時、メキシコの銀の街タスコに渡り竹田邦夫氏に師事。フリオ・ゴメスの工房で彫金を学んだ。帰国後、ヒコ・みづのジュエリーカレッジ東京校を卒業し工房を持つ。日本ジュエリーアート展入選。

金工

中村 ヨウイチ氏



「奈良工芸の粋」展では特別展示にオブジェを出展する。アクセサリーの枠を超えた大作に注目が集まる。

クでチャームリングなデザインがまず目を引く。と同時に指輪やネックレスなど身につけた時の肌なじみの良さも大きな特長であり、これは丁寧な仕事の賜物(たまもの)である。

福岡生まれ。大学で初めて京都に。インテリアプランナーを目指し、家政学部生活造形学科で学んだ。岐阜県であった大学生対象の建築系ワークショップに参加し、ものづくりにひかれて飛騨高山の家具メーカーで製造職についた。4年勤務し、工場のライン作業よりデザインから完成まで全部自分の手でしたいと思うようになった。今度は高崎県の指物工房矢澤に弟子入りし勉強した。その後、友人もいて住みやすそうで、伝統工芸

木工

今池 七重氏



息づく風土から刺激を得られると思ひ、奈良に移住。「七木」を開房した。福岡、京都、高山、宮崎、奈良。求めることに一途な芯の強さと、物腰の柔和さの同居は作品からも見て取れる。

使ひ込むほどに味わいが出てくる無垢の木。優しさともりを伝えながら、木の個性を生かした形や曲線を意識してデザイン・制作をする。そこに在ること、ほっとした嬉しい気持ちになったり。自分の生み出すものが、暮らしの普段になるような存在であってほしいと願ひ、今日も制作に励んでいる。

札幌の高校時代、木工に出会ったのが師匠と仰ぐ木工作家・徳永順明氏の作品から。大学の農学部で林業を学んだ後、弟子入りした。師匠が立ち上げた鮑(かんな)仕上げによる吉野杉の家具を作る「工房 下市木工舎」に研修生として入った。現在は自身が代表をつとめ、家具のデザインを継承している。

と同時に大竹氏は自分の名前前で、吉野杉の器や照明を作る木工作家である。吉野杉の特長は年輪が細かくまっすぐであること

木工

大竹 洋海氏



と。木目の端正な美しさと、手触りの柔らかさを生かし作品を制作している。制作には鮑が欠かせないが、それも鍛冶屋とともに手作りする。鮑や吉野杉という日本が世界に誇れる技術、文化を継承したい。自分のブランドは現在、器と照明がメインだが、どこまでも吉野杉のものづくりにこだわりたい。その良さをいかしたアイテムを柔軟に広げていきたい。吉野林業の歴史やそこに携わる人たちの思いを感じながら、吉野杉という素材を大切に、ものづくりにしてきたいと話す。

元々物づくりが好きで、造形関連の仕事に従事していた。関連する業界で根付作家としても活躍する人に刺激を受け、「彫る」ことの楽しさを再認識。鹿角を材に根付の道に入った。現在は根付・細工の作家として鹿角ツゲを使って制作する。根付は江戸時代に流行した印籠や煙草入れを帯に引っ掛ける留具。実用品ではあるが、粋な江戸文化の中で遊び心あふれる掌サイスの美術工芸品へと発展した。

細工彫

喜山 利歩氏



利歩氏の作風は、古根付へのリスペクトと自身の世界観を絶妙に兼ね備える。服のデザインのような感覚で、身に付ける人を格好よくできる作品を作りたい。根付は自分を表現する場所であり、お客様に寄り添う場所でもある、と話す。

子どものころから「職人」という言葉の響きが好きだった。敬愛する父が地元でプレス職人だったからか、単に言葉にひかれたのか定かではない。しかし確かに現在の新井氏は職人である。大阪芸術大学付属大阪美術

錫

新井 良子氏



働くことに。紆余曲折の末、父と同じ職人の道。つくづく近いと笑うが、運命は決まっていたのだらう。

現する。のみならず漆や木工作品の金具としてのコラボも積極的に行う。奈良の作家・企業とも縁が深い。錫は遣唐使が初めて日本に持ち帰ったとされる。こんなところも奈良との縁を感じる所以である。

大阪芸大で金工を専攻し、卒業後、自身の専門を「錫」とした。大阪は富山、鹿児島と並んで日本の錫器の産地である。錫は古来より金・銀に次ぐ貴金属とされ、凜とした輝きは宮中や社寺で重用されてきた。

錫

伴 哲生氏



高さをおかし熱燗用の酒器・チロリも作られるが、単に温めるだけでなくお酒をまろやかに美味しくする効果もあるそう。さびにくく滅菌性も高い。もちろん手触りを最大限に引き出すよう、指あとが残るオリジナルなフォルムを模索する。表面を焼くと陶器の風合いにも。変幻自在な錫の魅力は尽きない。

実家が吉野の製材所で、小さい時から木に囲まれて育った。大学で服飾学科を卒業後、神社に奉職。その後、実家の製材所に。製材所では面皮の担当になり、面皮を剥く作業の大変さと、製品にならなくて破棄する材料の活用を考へるようになった。面皮は吉野杉の年輪に刃を入れて剥いて材を取る。集成材の化粧貼の一部として使われるが、寒暖の差の激しい吉野は良い面皮の産地である。

面皮細工

花井 慶子氏



剥いだ面皮は強くて艶も美しく、木の温かみもある。身近な小物やアクセサリで、たかさんの人に木の良さを分かってもが、世間は多すぎない気がした。吉野杉でしかとれない独特の素材を使う事で、自然の木、吉野材の素晴らしさを、広く色んな開口から伝えていきたいと思う。制作している。

作家紹介

「奈良工芸の粋」展

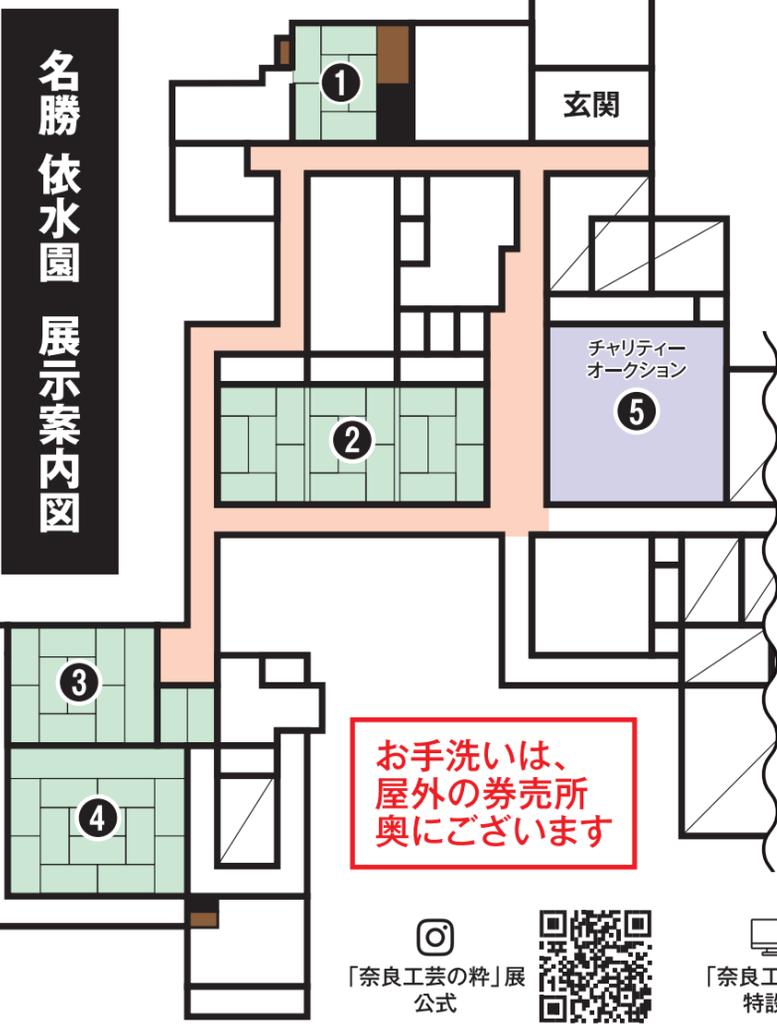
アクセスMAP



依水園入園料:一般 1,200円
(寧楽美術館の入館含む)



奈良には、寺社を中心とした門前町、文化都市特有の工芸が今なお生きており、それぞれの分野で匠(たくみ)たちが活躍し、各界の頂点を極めている。奈良新聞社ではこのたび、奈良を代表する工芸作家の作品を一堂に集め、質の高い奈良文化を展覧する「奈良工芸の粋」展を開催する。陶芸、染織、漆芸、木工、二刀彫、竹工、人形、ガラス、刀剣、茶釜、金工、錫、細工彫、面皮細工の14分野の作家が出品。奈良の伝統工芸の粋を鑑賞することができる。特設ギャラリーでは特別展示作家の作品も取りそろえ、奈良工芸の「今」を感じることができる空間とする。



名勝 依水園 展示案内図

お手洗いは、
屋外の券売所
奥にあります

特別展示
(寧楽美術館)
奈良を代表する
工芸作家の作品を
展示

特別企画
チャリティーオークション
本タブロイド 2~3ページ特集

- 特設ギャラリー**
- ① 人形・一刀彫・置物・錫・刀剣グッズ
 - ② 陶芸
 - ③ 陶芸・木工・竹工
 - ④ 漆芸・ガラス・陶芸
 - ⑤ 漆芸・染織・金工・細工彫・面皮細工

ギャラリートーク

3月14日(金) 11:00~13:00
陶芸作家 森田由利子氏

3月15日(土) 11:00~13:00
面皮細工作家 花井慶子氏

[定員]各部20名様 **事前申込制**
[参加費]お一人様 5,000円(税込)
[場所]名勝 依水園「三秀」

お申し込み 「奈良工芸の粋」展 ギャラリートーク係
お問い合わせ ☎0742-32-2118(月~金9時~17時)



NARA NEWS PAPER
発行・奈良新聞社 〒630-8686 奈良市法華寺町2の4
☎0742(32)1000(代) www.nara-np.co.jp

特設ギャラリー 作家新作プロジェクト

統一テーマ

まほろば

作家の心の中にある「まほろば」を工芸作品で表現。この新作はここでしか購入できない希少な逸品です。



「粉泥古彩飾り香炉 天平の華」 豊住和廣作

★今年より、オンラインショップ「奈良工芸の粋」展が会期終了後、4月1日15時~4月29日23時59分までの期間限定でオープン。ラインナップは「まほろば」がテーマ。本展限定作品に出会えるチャンスです。 **オンラインショップはコチラから▶**



工芸作家動画



特設サイトで配信中